

中京独立戦略本部会議 産業活力分科会 議事概要

本部長	主な意見
大村 秀章	○経済、産業が活力を持っているということは、地域にとって非常に大事。まさに、生命線と言ってもいい。この地域が、日本最強の産業圏域であり続けられるように、自動車産業、航空宇宙産業を始め、付加価値が高いモノづくりを引進め、全国、全世界に発信していきたい。 ○産業、企業を支えているのは、マンパワー、人材。その人材をどのようにこの地域に国内外から集め、育成していくのか、また、伝承していくのかということが、大きな課題。 ○今年11月には、ESDのユネスコ世界会議、技能五輪の全国大会と障害者の技能競技会の全国大会のアビリンピックといった人づくりをテーマにした大きなイベントがあるため、それに向けて大いに盛り上げていきたい。
河村たかし	○現在進められている大規模再開発計画が、東京は数十件。大阪は11件で、名古屋は3件という資料もある。東京一極集中とよく言うが、やはり東京は圧倒的だ。名古屋は、“三男坊”としてやっていけば間違いはないが、“長男”を目指して経済力で勝たなければならない。 ○減税ほどの産業振興策はない。世界中で、必死に減税政策に取り組んでいる。 ○名古屋市では、商売をやる人に対して、跡継ぎを養成しようと、塾みたいなものをつくって、やりかけたところ。また、小規模店主が設備を更新等するときの支援もしている。 ○日本版マサチューセッツ工科大学みたいなものと、巨大

	な国際展示場で技術革新の聖地をつくる。 ○この地域は、民間の皆さんの力で、豊かになったが、モノづくりが盛んになった元は、木曽のヒノキである。
--	--

本部員	主な意見
宮崎 直樹	○この地域には、モノづくりが集積していることもあり、豊富な人材がいることは事実で、活用しない手はない。 ○65歳以降になっても、体力、意欲があり、もっと社会のために尽くしたいと思っている人は大勢いる。熟練した技能者、技術者をしっかりと集めて、それを必要としている会社とうまくマッチングし供給するという「人材バンク」のようなことができるのではないか。 ○高卒者は、入社時に、どのような仕事をするのかという職種の理解が不十分で、すぐ辞めてしまう製造現場もあると聞く。大学生には、インターンシップがあるが、高校生も勉強のために、短期間、企業の現場に入り、「モノづくりとはこういうことだ」、「自動車をつくるとはこういうことだ」、「機械組立とはこういうことだ」ということを学ぶ機会があれば、もっと製造業に若い人材を持続的に確保していけるのではないかと思います。
鶴田 欣也	○この地域の産業活力を高めるということは、他地域との競争力を高めること。中部地域は、日本の中心に位置し、高速道路網の要にあり、地理的には大変な優位性を持っている。これをフルに活かすためには、まず、さらなる物流のインフラを整備することが必要。 ○中部国際空港を国際拠点空港として活用するには、2本

鶴田 欣也 (続き)	目の滑走路の整備が必要。また、名古屋高速道路を名古屋駅に直結する、駅の裏側にターミナルをつくるなど、思い切った、地域の物流インフラの向上に向けた魅力あることをしなくてはならない。 ○企業における優秀なモノづくり人材を確保することは、産業活力を高める上で欠かせないが、製造業及び建設業では、若者の就労希望者が減少していることに加え、早期の離職者が多い。 ○そのため、小中学校での職場体験、高校でのインターシップの実施など、子どもの頃からモノづくりの魅力を発見する機会を作ることが大切。新入社員教育の仕組、柔軟な社員教育制度を確立し、中小企業における技術、技能等の継承を支援するためのアドバイザー登録制度を創設してはどうか。 ○また、大学や公の試験研究機関などの活用や共同研究を推進するため、研究機関を一元的に利用できる窓口を設置して、中小企業の新技術開発への支援体制の更なる充実を図っていただきたい。 ○この10年間で、地元の小規模な小売店舗が減少して、大手の商業チェーン店が増えている。チェーン店は基本的に商店街の組合に加入しないため、商店街の結束が弱まり、旧市街地の活力が失われていく。都市の活力が弱くなることによる魅力の喪失、さらには、今後の高齢化社会における買い物難民の発生が懸念される。地元に着した小売店舗の育成をもっと支援すべきではないか。
-----------------------	--

有識者	主な意見
浜本 英嗣	○この地域の強さは圧倒的な製造業で、根本は自動車産業。「世界と闘える産業」を前提とした上で、個別の取組に移る前に違った着眼点があるのではないか。例えば、目指すべき姿について、「世界と闘える元気な地域」を実現していくというアピールに、「技術立国日本をリードする」技術などのフレーズを補ってはどうか。 ○産業において最強の地域であり続けるために必要なものは技術力で、その中身は、世界的な先進性と、この地域の強さである工業でありモノづくり。この2つがキーワードになる。 ○この先端性やモノづくりをさらに進化させて、世界のマザーファクトリーとしてやっていくには、人材の確保が重要。人材の側面を産業活力においてもはっきり意識しなければ、訴えるところが弱いのではないかと思う。公的な先端的研究機関、大企業の開発なり技術部門、大学の工学部、工業高校、高専など一連のものとセットで人材を供給するような機能が必要。 ○産業を発展させようとするとき鉄則となるのは、強いところをさらに伸ばすこと。このとき、どういう優秀な人材を集めるか、彼らにとってどう魅力ある地域にするのが鍵になる。集まった人材を吸引できる研究機関や教育機関が確保されていると、次世代の産業は、そのインキュベーターの中で自動的に育っていく。 ○こういう地域にするのだということを中京独立戦略本部としてアピールし、産業集積の力と、国内外から見て、いろいろな意味で魅力ある地域をつくることで、最強の産業をさらに発展させ、活力ある地域にしていくべき。

有識者	主な意見
福島 茂	○この地域はモノづくりが中心で、その持続的な発展や、いかに深めていくかということが大きな課題。現在の県・市の取組の方向は、それぞれの射た施策だろう。 ○一方で、ある特定の産業クラスターだけを育てるのではなく、この地域にあるいろいろなシーズをマーケティングし、プロデュースして、様々な新しい産業の誕生を後押しするような産業施策も並行して重要になると思う。 ○また、海外からの企業誘致のために多額の補助金を投入するより、この地域で学ぶ優秀な学生や中小企業の社員を先進的な起業風土のある海外（例えば、シリコンバレー）に送り込むようなことに奨学金を使った方が良い。人を育て、新しい発想をこの地域に持ち込んでくる。そして、いわゆる消費者的なプロデュース機能とベンチャーキャピタルのような金融的な支援、経営サポートでそれを支援するようなフレキシブルなアプローチも考えていく必要がある。 ○今ある企業にとって何が足りないのかをきちんと聞きながら、ビジネスとしての魅力があり、企業が集まってくる土壌をつくる、ホームベースを強化するような産業施策が重要。 ○“人”がキーワードになる。三大都市圏を比較すると、この地域には、空間的、経済的、時間的な3つのゆとりがある。本当に魅力のあるライフスタイルができれば、人が定着し、ちゃんと育てれば、産業にも返ってくる。 ○優秀な人材をこの地域にどう戦略的に呼び込み、どう育て、どう地域に根づかせるのか、トータルなストーリー

福島 茂 (続き)	を描く必要がある。日本特有の“育てる”文化、チームワーク、やりがいなどを留学生に理解してもらったり、海外にそうしたことをアピールし、日本の企業で働く、日本的に働くということのモデルや夢を示していくことが重要。 ○愛知県・名古屋市がリーダーシップをとって、行政と企業の奨学金をパッケージにして、大学の研究内容や卒業後の活躍を可視化し、プロモーションをエリア全体で行えば費用対効果も高くなる。奨学生のすべてが「愛知・名古屋奨学生」になると、充実した留学生活やネットワークづくりが期待できる。
----------------------	---